



葉 信村氏

「浴衣がダメなら旅館を売ってほしい」と膝詰め談判
 2017年11月、東京・銀座SIXの上階で、ささやかなお披露目会があった。高級老舗旅館の「ABBA RESORT IZU坐漁荘」(静岡県伊東市、浮山温泉郷)が、ワールド・ブティックホテル・アワード(WBHA)を受賞したことを記念してのことだ。アジア地域の料理部門で「アジア・ベスト・カリナリー・ブティックホテル2017」を獲得し、

ホテル・メンバー3名が、ロンドンでの授賞式に臨んだ。
 ただ、名門施設「ザ・マーチャント・テイラーズ・ホール」の式典には、この旅館を再出発させたご当人、葉信村氏は出席しなかった。だが、前述のお披露目には、葉会長も列席。日本の高級旅館の経営に乗り出した「狙い」について直撃した。
 おつとりした初老の台湾人男性、葉氏は強烈な日本最層の方で、一般の日本人よりも日本の文化や歴史に精通している。これに関して葉氏は開口一番、こう強調する。
 「台湾の真の歴史は、日本の半世紀にわたる統治下で始まったと思います。私の生まれた南部の屏東は、蔡英文總統の出身と同じ。親日家が多いですよ」
 確かに、蔡總統は日本の統治時代に関して「日本人にも誤りもあったが、台湾に対する貢献もあった」と

発言しており、また日本語を3年間学び、たびたび日本にも訪れている。
 この葉氏、単なる旅館のオーナーではない。1993年に創設した台湾屈指の巨大企業、CIVIL GROUPの会長だ。ちなみに、同社が抱える事業は、建設業を皮切りに、百貨店、浄水システム、不動産開発、投資コンサルティング、ホテル管理コンサルティングと多彩。
 そもそも日本旅館に関わったのは、2010年、葉氏が新潟・月岡温泉に宿泊し魅了されたのがきっかけ。ところが、これは別に旅館経営には縁遠いことで、2011年の「3・11」の際、葉氏はすぐさま200万円(約700万円)の義援金を日本に寄付。加えて、台湾から社員500名を引き連れ、同社の創立記念イベント「義と愛の20周年大会」を月岡温泉で開催。風評被害に苦し

む温泉を物心両面で支えている。
 ちなみに、「義と愛」は、葉氏が敬愛する日本の文化・精神を現す格言の1つ、「敵に塩を送る」が由来だ。
 月岡温泉の大会には県庁の関係者や地元企業の代表、人間国宝の刀工・天田昭次氏らも出席。後に県観光局と新潟県庁から表彰され、加えて葉氏が依頼した日本刀の製造を、天田氏は快諾したと言う。ちなみにこの刀剣は天田氏の遺作となった。
 その後、葉氏は日本の温泉に傾倒、各地を訪れる中で、伊豆・伊東にほど近い日本旅館「坐漁荘」に出会う。そして、葉氏はその佇まいやおもてなしに、たいそう気に入ったらしく、とりわけ浴衣の心地よさに惹かれ、「売ってください」と懇願した。だが、旅館側は「難しい」との一点張り。そこで葉氏は、「では、

JIRON KOHRON V

直撃インタビュー

伊豆で高級旅館経営に乗り出した台湾実業家 CIVIL GROUP 会長 葉 信村氏の 「日本文化の愛し方」

国際ジャーナリスト

戸田 光太郎



ワールド・ブティックホテル・アワードを受賞した「ABBA RESORT I ZU坐漁荘」

旅館ごと売って頂けませんか」と切り出した。

単なる目先の「金儲け」のためで

はない。和の伝統、そしてブランドを頑なに守ろうとするポリシーにこそを奪われたのだ。その後、葉氏はオーナーと協議を重ね、晴れて坐漁荘を取得、さらに30億円を投じてヴィラを新築するなどし、2014年に「ABBA RESORT I ZU坐漁荘」として新装オープンを果たす。もちろん地元との調和を重んじ、改築には地元の素材・業者にこだわった。

一方、日本旅館独特の非効率経営の刷新にも尽力、会計の近代化や女将に集中していた権限の委譲などを進めて行く。ただし、過度な効率化は避け、あくまでも「お客様が求めていることは何か」を中心に据えた経営を肝に銘じている。

「仏様でもお腹が満たされなければ願いは叶えられない」

「台湾には古くから『仏様もお腹が満たされていないと、人々の願いことを叶えられない』という言葉があります。食べていかねなければ文化を残すことは困難です。刀もそうです。それは大名かもしれないし、剣客かもしれないませんが、注文して購入してくれる顧客がいなけ

れば、名刀の匠の生活が成り立たず、日本刀文化は継承されません」と、葉氏は伝統・文化と経営との調和の大事さを説く。

そして、「大切にしたいと考えているのは、日本らしい本当のおもてなしを提供し、その文化を世界に伝えていくことです。日本の素晴らしい温泉文化を世界の舞台に引き上げたいと考えています」と、その思いを熱く語る。

その願いの1つが、今回、英国で表彰されたことになる。WBHAは、小規模で上質なサービスを提供するホテルを対象とする、世界で唯一のブティックホテル専門の世界的な賞である。ノミネート・メンバーによる覆面視察を皮切りに、アワード事業部による口コミサイトなどでの調査、電話審査、さらには調査員による宿泊調査など、数々の難関をクリアしなければ、栄冠は輝かない。

さて、葉氏は「日本の心」とも言うべき日本刀の収集家としても名高く、これらコレクションは坐漁荘にも飾られ宿泊者は堪能できる。もちろん、天田氏の名刀もここにある。日本文化を敬いながら、ビジネス

的にも成り立たせる思考。

「10年長期的な考え方や、株で大きく儲けようという考え方は全く持っていない」と葉氏。

松下幸之助や稲盛和夫の著作を玩味熟読するという葉氏に、彼らのどんな言葉が特に好きかと、最後に尋ねると、言下にこう答えた。

「敬天愛人」。これは西郷隆盛が自己修養の言葉として繰り返し唱えていた言葉だ。西郷の側近が書き残した『南洲翁遺訓』にこう残されている。

「道は天地自然のものにして、人はこれを行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は我も同一に愛し給ふゆえ、我を愛する心を以て人を愛する也」――。

西郷と同じ薩摩出身の稲盛氏は、これを座右の銘としている。森羅万象である天を敬い、その天に属する自分以外の他人も含めて愛することを説いている。

優れた経営者の言葉が受け継がれ、また優れた経営者を生み、まっとうな事業展開をする。ややもすれば忘れがちな、「日本の正しい経営者の姿」を、葉氏に見出すことができるのではないだろうか。